

寒川町 平成20年度事務事業評価シート(平成19年度実施事業)

事務事業名	福祉タクシー助成事業			第2班	第7事業
主管課・担当名	福祉課障害福祉担当	根拠法令等	福祉タクシー利用助成要綱		
課長	山仲 功	体系コード	32411-08	科目コード	01-03-01-02-006-02

【Plan - 計画】

(1) 総合計画上の位置づけ

章	安心して生きがいのあるまちづくり
節	心のかよいう福祉を充実します
項	障害福祉の充実
小項目	障害福祉の充実
細項目	自立と社会参加の促進
重点プロジェクト	<input checked="" type="checkbox"/> いきいき <input type="checkbox"/> 環境 <input type="checkbox"/> にぎわい
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> ソフト事業 <input type="checkbox"/> ハード事業

(2) 事務事業の概要

事業期間	開始年度	<input type="checkbox"/> 平成 <input checked="" type="checkbox"/> 昭和 60年
	終了予定年度	-
事業内容	一定基準以上の在宅障害者の申請に基づき、福祉タクシー利用券を年間48枚(1月あたり4枚)交付し、利用枚数に応じて、タクシー料金の初乗り運賃分(上限1,000円)を助成する。	

(3) 事務事業の目的

目的	対象(誰(何)のために)	重度の身体障害者及び知的障害者等
	意図(どのような状態にしたいのか)	障害者の社会参加、生活圏の拡大を図る。

(4) 成果指標

成果指標(単位)、または数値化できない成果	福祉タクシー利用券の利用枚数(枚)					
成果指標等の設定理由	障害者の社会参加、生活圏の拡大の度合いを図るため福祉タクシー利用券の利用実績を成果指標とする。					
目標値設定の考え方	18年度の実績を参考にする。					
目標値	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	7,520	5,500	5,500	6,000	6,000	6,000

【Do - 実施】

(1) 成果指標

指標(単位)	平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
福祉タクシー利用券利用枚数(枚)	7,520	5,538	5,500	5,466	5,500	/	6,000	/	6,000	/	6,000	/
数値化できない成果の達成状況												

(2) 活動指標

指標(単位)	平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
福祉タクシー利用券交付枚数(枚)	9,000	8,444	9,000	8,120	9,000	/	9,000	/	9,000	/	9,000	/
福祉タクシー利用券交付人数(人)	200	192	200	184	200	/	200	/	200	/	200	/

(3) 事業費(単位:千円)

指標(単位)	平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	予算	実績	予算	実績	予算	実績	予算	実績	予算	実績	予算	実績
直接事業費	6,732	3,591	4,238	3,612	/	/	/	/	/	/	/	/
財源内訳	一般財源	6,732	3,591	4,238	3,612	/	/	/	/	/	/	/
	国県支出金					/	/	/	/	/	/	/
	使用料・手数料					/	/	/	/	/	/	/
	その他					/	/	/	/	/	/	/
執行率	53.3%		85.2%									
人件費	1,471	1,471	1,465	1,465	/	/	/	/	/	/	/	
内訳	投入人員	0.2	0.2	0.2	0.2	/	/	/	/	/	/	
	平均給与額	7,355	7,355	7,325	7,325	/	/	/	/	/	/	
総事業費	8,203	5,062	5,703	5,077	/	/	/	/	/	/	/	

【Check - 評価】

(1) 前年度評価シートの改善内容の実施状況

平成19年度の改善予定	平成19年度の改善結果
ストレッチャーのまま利用できる基本料金が高額なタクシーの登場により、助成する金額(現状は基本料金)の見直し等を行う。	自動車運送法等により国の規制緩和が実施され、多くの福祉タクシー協力会社が参入して来ている現状で、その対策についても考慮していく必要があり、補助する基本料金の限度額を1,000円とした。

(2) 事務事業の評価

評価の視点	評価のポイント	評価	理由	
妥当性	事務事業を実施する必要があるのか 町が主体となって実施する必要があるのか	・必要な事務事業か ・事務事業のニーズは ・事務事業の公共性は ・社会環境変化 ・町が実施すべき事務事業か ・町が実施しない場合の影響は ・町民との協働は進めているか	■ 妥当である <input type="checkbox"/> どちらかと言えば妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当ではない ■ 町が行わなければならない <input type="checkbox"/> 町が行った方がよい <input type="checkbox"/> 町が行うべき必然性が低い	障害者の移動手段を確保する制度がなく、社会参加促進のためには、必要な事業である。 町以外の者による本事業の実施は難しい。
有効性	対象者の満足度や事業の達成度かどうか(成果指標の状況)	・目標の達成度 ・成果の向上 ・活動内容は適切か	<input type="checkbox"/> 十分成果が上がっている <input checked="" type="checkbox"/> 成果は十分とはいえない <input type="checkbox"/> 成果は上がっていない	障害の程度により利用者のニーズが異なるため、必ずしも成果が十分とは言えない。
効率性	事業費に無駄はないか	・事務事業は効率的に行われているか ・コストの節減 ・実施手法 ・受益者負担	■ 適切である <input type="checkbox"/> 適切だが改善の余地がある <input type="checkbox"/> 効率的でない	全国的なタクシー料金の値上げに伴い、助成金額に上限を設けるなどの制度改正をした。

【Action - 改善】

(1) 事務事業を進めていく上での課題、解決に向けての改善内容

	課題	平成20年度	平成21年度以降
妥当性			
有効性	障害の程度により、利用率に差がある。	障害者のニーズを把握するため、調査・分析を行う。	障害者のニーズに応えるため、制度改正につなげる。
効率性	福祉タクシー利用券の利用に関して、状況把握が出来ていない。	助成金額の制度改正を行ったため、今後の利用状況の把握方法を検討する。	福祉タクシー利用券の利用実態等を把握し、適正な利用に向けた制度確立を目指す。

(2) 事業の今後の方針(課長による評価)

活動指標の目標	<input type="checkbox"/> 高める <input checked="" type="checkbox"/> 設定どおり <input type="checkbox"/> 下げる
理由	申請者の人数の推移にそれほど変化はない。
成果指標の目標	<input type="checkbox"/> 高める <input checked="" type="checkbox"/> 設定どおり <input type="checkbox"/> 下げる
理由	必要なときに利用できる制度で福祉タクシー利用券は使い切らなければならないものではない。利用枚数の変化は小さい。
事務事業の方向性	<input type="checkbox"/> 方法改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小・廃止・終了 <input type="checkbox"/> 統合
理由・内容	障害があることにより生活範囲を制約されやすい重度の障害者の方の支援ができる。

部長確認	和田広道	確認日	2008/10/15
------	------	-----	------------